

## 【草花の部屋】

### ヒレハリソウ(ムラサキ科ヒレハリソウ属 *Symphytum officinale*)

**和名** ; ヒレハリソウ(鱈玻璃草) **別名** ; コンフリー **英名** ; Comfrey

シソ目 多年草 **原産地** ; 地中海沿岸

**花言葉** ; 努力 **花の色** ; 紫、桃、白



← 写真-1 ヒレハリソウ

撮影日 : 2023年5月29日

撮影場所 : 彦根市庄界公園にて

撮影者 : Mさん

↓ 写真-2 ヒレハリソウ

撮影日 : 2023年5月29日

撮影場所 : 彦根市庄界公園にて

撮影者 : Mさん

↓ 写真-3 ヒレハリソウの花

撮影日 : 2023年5月29日

撮影場所 : 彦根市庄界公園にて

撮影者 : Mさん



夏に垂れ下がって咲く淡紅色の花から、玻璃草(はりくさ)とも呼ばれ、下葉に魚のヒレのようなものがあることから、和名ヒレハリソウの由来になっているそうです。

やや湿り気のある土壌を選び、丈夫でどんな環境でも育ちやすいので、野生化しているそうで、英名由来のコンフリーの名前でよく知られているそうです。

茎は直立～斜上し、分枝し、草丈は50～90cmほどになります。全体に白い短粗毛が生えていてざらつきます。葉は互生し、卵形披針形で先が尖り、下部の葉は大

きくて葉柄がありますが、茎につく葉は互生する単葉で、長楕円形となり、葉の縁は全縁です。葉柄はなくなって、葉の基部が茎に沿って翼となっています。

花期は初夏の6～8月ごろで、枝先に集散花序を出して、淡青色から淡紅色(まれに白色)の花を咲かせます。花は短い花柄で下向きについて、花冠は筒状、先の半分は釣鐘状にふくれ先端が浅く5裂します。

日本には明治の中ごろに食用や薬用・家畜の飼料として移入されましたが、”不老長寿の薬草”あるいは”栄養蔬菜”として珍重されたそうです。また長寿者の多いカフカス地方で食用とされることから昭和40年代に健康食品としてブームとなったこともあるそうです。

鑑賞用にも美しい花ですが、ヨーロッパでは古くから根や葉を出血性胃腸疾患や抗炎症、骨折や傷の治療に用いられてきたそうです。また葉や若芽はビタミンやミネラルに富み、食用ともされてきましたそうですが、ピロジジンアルカロイドという有毒成分が含有され、肝障害(肝静脈閉塞性疾患)の健康被害が知られるようになったことから、日本では2004年6月に食品としての販売が禁止されています。